伊那谷につづる

丸山義二 池田憲介
共　編

丸山義二

明治36年兵庫県に生まる。作家。昭和14年有馬賞を受賞。日本農民文学会常任理事，日本文芸家協会に所属。
主著:『庄内平野』『貧農の歌』『新しい農民像』(家の光協会刊）などがある。

池田憲介

大正2年長野県飯田に生まる。本名憲寿。昭和31年長野県社会教育主事。下伊那地方で文集運動，青年活動を推進し現在に至る。
著書:『下伊那青年運動史』(共同編纂・国士社刊)

伊那谷につづる
——かあちゃん文集

昭和40年8月18日／第1版
定価／270円
編者／丸山義二・池田憲介
発行者／奥原　潔
印刷所／大日本印刷株式会社
製本／寿製本K.K.

発行所／家の光協会
東京都新宿区市ケ谷船河原町11

©1965 Yoshiji Maruyama
Kensuke Ikeda

落丁本，乱丁本はおとりかえいたします。

伊那谷につづる

—かあちゃん文集—

丸山義二
池田憲介　編

家の光協会

25

日本財団支援

笹川良一記念文庫

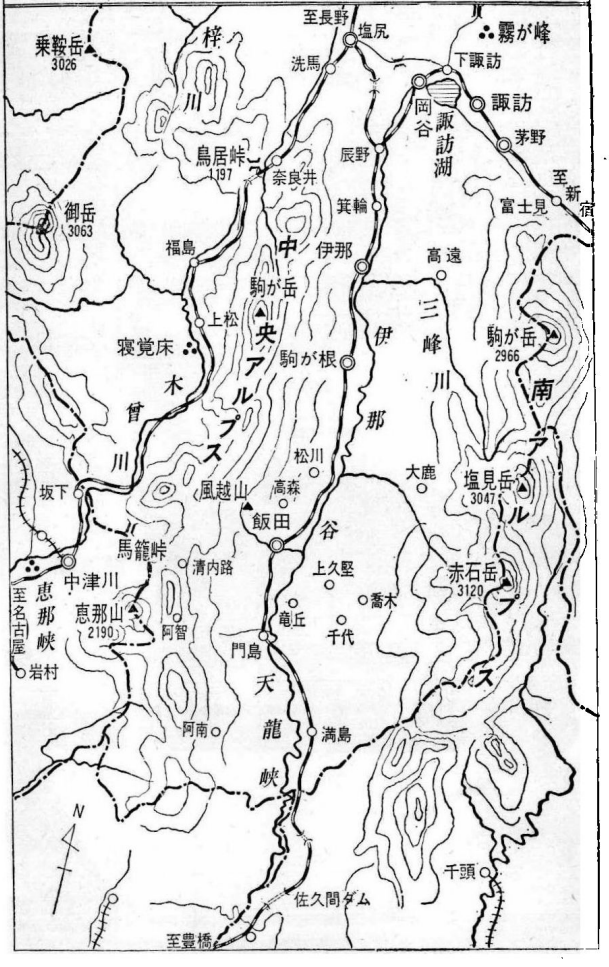
財団法人日本科学協会

カラー真　辺啓介
写真　熊谷元一
図版　家の光写真部
中央美術研究所

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong

文集のふるさと

伊那谷


乗鞍岳
3026
梓川
至長野
塩尻
霧が峰
洗馬
下諏訪
諏訪
岡谷
諏訪湖
茅野
至新宿
富士見
鳥居峠
1197
奈良井
辰野
御岳
3063
箕輪
福島
中
伊那
高遠
駒が岳
上松
寝覚床
木曾川
中央アルプス
駒が根
伊那谷
三峰川
駒が岳
2966
南アルプス
松川
高森
大鹿
坂下
風越山
飯田
塩見岳
3047
馬籠峠
清内路
上久堅
赤石岳
3120
中津川
恵那山
2190
阿智
竜丘
千代
喬木
至名古屋
恵那峡
岩村
門島
天龍峡
阿南
満島
N
千頭
佐久間ダム
至豊橋

目次

□序詩・この手のひら……8

□文集のおいたち……9
伊那谷の風土(10)　文集の誕生(11)
広がる波紋(17)

□暮らしをみつめて……19
おばさん(20)　子らとともに(21)
若き母親の願い(22)　過ぎし日を思いて(23)　行商(25)　くふうしたい敬老(27)　つぎの時代に求めるもの(28)　ヘビ酒売り(30)　自転車(33)
美容体操(34)　年の暮れに(36)　つらいことはこの二つ(38)　顔(39)
若い母のあせり(40)　過ぎてきた道(41)　幸福をかち得た(42)　わが家の好日(44)　ムギまき(47)　十七歳の珍客(49)　貧乏(51)　大当たり(52)
涼風たつ野道を(54)　ブタのお産(55)　土方仕事の中で(57)　山ふところに住んで(58)　夜なべの語らい(60)　ばかな女(61)　ある秋の日に(62)　わたしの喜び(63)　女の美しさ(64)　思い出の坂道(65)　免許証(67)　原稿を手にして(69)　わが右手の小指(70)

□母とよばれて……73
新しい長ぐつ(74)　変わってきたしゅうとめ(75)　けさのできごと(77)

おしゅうとめ様の親切(77)　工場と家庭(79)　母と子(81)　生きていく道(83)　忍び泣き(84)　新しいおとな・古いおとな(85)　男(86)　おじいちゃん(87)　乱暴な子とヤギ(88)　妻の立場(89)　わたしたち夫婦(91)　夫(92)　ろばた(95)　こがらし(96)　老人によせて(97)　K君よ、がんばれ(98)　父とアルバムの中の娘さん(99)　白く光った目(101)　自分をたいせつに(101)　子の就職(102)　教育と経済の板ばさみ(103)　兼業農家の主婦(104)　熱海の夜(105)　家庭の情理(106)　しあわせはどこに(108)　つい ていけない現実(109)

回あすへの願い……111

はたご(112)　主婦にしてください(113)　問題の貯金(115)　共同炊事(116)　結婚シーズン(117)　会合で(118)　Y子の悩み(119)　わたしの月給(120)　ある職場での会話から(121)　自己主義はやめて(123)　健康の大事さ(123)

回野良に立つ……125

梨の花(126)　イネ刈り(126)　調製の日に(127)　農婦の思い(129)　ムギにつくぐち(130)　霜害(132)　秋晴れの畑(133)　わたしは考える(134)　働く喜び(136)　あぜぬり(137)　ウシてんぐ(138)　共同作業(140)　開田作業(141)　つどう喜び(143)　農家にとついだ娘(144)　百姓十年(146)　出稼ぎ農業はいやだ(147)

□明るい社会を……149
勤労(150)　山間地帯の母の心境(151)　部落講座(153)　農道を作りたい(154)　このままではさびれるばかり(155)　世の中は頭がいたい(156)　信仰の押し売り(157)　わたしの心配(158)　新聞を読んで(162)　かさの下で泣く赤ん坊(163)　赤石広川原にて(164)　川(166)　テレビの宣伝番組(167)

□災害をのりこえて……169
思い起こすあの日(170)　水害の思い出(171)　世にも恐ろしい物語(172)　カイコを飼える日まで(177)　知恵と構想がほしい(178)　長男を工場に出す(180)　災害一年を迎えて(180)　罹災者のために(182)　耕地復旧事務を手伝って(183)　災害孤児(184)

□この声を政治に……187
阿智原の道(188)　時に思う(190)　水(191)　村の政治に一言(192)　雨降りに思う(193)　わからないままに(195)　わたしはなおも考える(196)　村の大物(197)　あるしわすの朝(198)　金と権力に支配された地方選(199)　家計簿をみて(200)　公明なんてどこ吹く風(202)　物価と保険(203)　大工事の陰に(204)

□婦人文集の展望と課題……207

□あとがき　池田憲介　丸山義二……223

序詩　この手のひら

妻となり母となって
一町歩ちかい畑をつくり
鍬や鎌をとったこの手のひらは
土や草や太陽の色がしみこみ
もうこんなにかたくなって
夢のかけらさえ湧こうとしない
けれど、この手のひらが
子どもをかかえると
子どもはすやすやと寝息をたてるのだ

（31年『やまぶき』）

文集の生いたち

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong

□伊那谷の風土

海のない山国信州の南端、中央アルプスと南アルプスの両山脈にはさまれる長野県下伊那地方は、静岡、愛知、岐阜の三県に接する山間地帯で、一市四町十五か村（合併前は四十二か村）面積は千九百二十九平方キロで、小さい府県ほどに広いが、人口は十九万人に満たない。諏訪湖に発する天竜川が中央を南下して太平洋に流れ、これに沿って国鉄飯田線の電車が走っているほかは、バスや車にたよる輸送も、二百メートルもあるはるかな谷底を眼下に、断崖の腹をぬっていくスリルは諸所にあり、中央部での会合にも一泊を、県庁への用たしには三日がかりという村もある。

ぐるりと海抜千メートル余の山に囲まれる地帯は、中央の平たん地も四百メートル前後、群小の山が張り出し、天竜川のほぼ中央の名勝天竜峡の地点までは、沿岸には水田や桑園も見られ、一段上の段丘にも、畑、果樹園が見渡せるし、所々に町場もあるが、それより以南は川岸まで山が迫り、川沿いの鉄道もトンネルが幾十と続き、駅に降りてもすぐ急坂にかかるような地帯で、道は山あいをぬい、途中に人家も見えない場所が随所にあり、こうした道によって部落と部落が

つながっている。

こうした地方の中央の風越山麓段丘上、天竜川に面して城下町飯田市の市街地がある。土地の日刊紙二つ、映画館は四つ、県立高校は三つ、少し離れて県立（分校は除き）四と、私立二の高校が点在している。段丘や傾斜地の農耕地が多く、とくに県境の山深い地帯は、文化の吹きだまりの例にもれず、国指定の無形文化財が三つもあり、ひところは「民俗芸能の宝庫」などと騒がれたほどに古いものを温存しつつ、他方、大正時代の青年団自主化運動、自由青年連盟事件、昭和初期のプロレタリア文化運動、戦後の文化芸能活動などの内容をもつ「下伊那青年運動史」に見られるような、文化的欲求の下地のうえに、昭和二十五年ごろは演劇サークルも二十を越えて競演会も十三年を重ねたが、「農村の変貌」下にはいって以来は、意欲はもちつつも文化活動は衰退に陥り、経済成長政策下にはいってからの模様は、本文中にしるされているとおりである。

□文集の誕生

昭和二十七年、この伊那谷の一山村千代村ではじめて、小学校の萩元先生の世話で、級の母親たち十人ばかりで書きよった「文集」が誕生した。謄写刷りの半紙数枚をつづった素朴なもの

で、三十年までの間に、会員や原稿の数に異動はあったが九号を出し、三号から「めばえ」と名づけたが、中心になる人の転出で発行は中断してしまった。

ところが三十年の春、天竜川東岸の山の部落をもつ喬木村で、筒井勝子さんが婦人会長に選ばれたとき、婦人会員の生活作文を募集したところ、応募数が百六十五編にも達し、筒井さんはその処理についてわたしのところへ相談にこられ、「こんど婦人会長にされちまって、婦人会は初めてだし、何をしたらいいかわからんので、みなさんの意見もききたいし、わたし自身またみなさんの生活や考えていることを知りたいと思って、みんなで生活作文を書いて、それを婦人週間に学びあうために使いたいと思っていたのですが、四月選挙などで時期が過ぎ、原稿はたくさん集まってしまい、役員のかたたちもどうしていいかわからんちゅうし、どうしたらいいものでしょう」といわれた。わたしは、「それがどんなものなのか、とにかく見せてほしい」と答え、数日後、筒井さんは木綿のふろしき包みをさげてきて、「この間お話しした作文です」といってさし出された。

包みから出された原稿はつくえの上にいっぱいだった。中には、インキをこぼした跡のあるもの、飯粒ではりつけたり、糸でとじつけたもの、便せんに書いたのもあれば、農業簿記か何かの用紙の裏に書いたのもある。わたしは、二、三日預かることにして家に持ち帰って読み続けた。

読み進んでいくと、端麗な筆跡もあれば、「で」を「れ」と書く癖のもある。おそらく学窓を

出てから鉛筆など手にしたこともないと思えるような母親も書いている。一編一編読んでいくうちに、ひしひしと胸をうつ文がつぎつぎに出てくる。心なしか涙のしみていると思われる原稿もあった。

百六十五編をひとわたり読んで、種々さまざまの主婦の生活の中から訴えているもの、いったい何がこれまでに「書くように」させたのだろうか――わたしはさっそく筒井さんに、「これはぜひとも文集にしてほしい。母親たちが〝わたしたちの文集〟を手にとって、それをどのように扱うか、あすからの部落での生活、婦人としての行動のうえにどう役だたせていくか……それこそ婦人たちの学び合いのひとつの型でもあるし、鉛筆をもつ母の姿こそ家族に与える無言の教育でもあり、新しい生活実践の手がかりになると思うが」といった。

筒井さんは、「初めてのことでもあり経費のこともあるので、役員と相談して決めたい」といって、その後、役場の二階で役員たちと集まって協議を重ねたが、〝時期も遅れないこと、経費も一冊が安たばこ一個代くらいで、みんなに好感をもたれ、しかも、利用しやすいようにつくらないと逆効果になる心配もある〟などの条件が出された。そして万一の場合は責任を負わなければならないという関係もあり、わたしがその作製を引き受けることに決まり、その日からわたしは編集と原紙きりに着手した。その最中に、筒井さんの序文がとどいた。

当時の模様を知るために『たんぽぽ』第一号にのせたその序文を紹介しておこう。

『たんぽぽ』第一号の「序文」

あの山形県の一寒村の中学生の書いた詩は、いつもわたしの頭からはなれません。

〃雪がコンコン降る　人間はその下で暮らしているのです〃

目を静かに閉じると、あちらこちらの部落の会員のかたがたのお顔が目に浮かんでまいります。そこには十把ひとからげの婦人会員というのでなく、雪にとじこめられて静かに炉辺の火をたく母親の姿、真夏の太陽の下で汗を流して草けずりをしているひとりの婦人、大きなシンデン籠にクワを山ほど入れて背負って坂道を列を作って登って行く養蚕時の主婦の姿、女手に子どもをかかえていっさいを背負い戦っている未亡人、美しい渓谷の風景と重なり合って、現実の生活は厳しくつらいのです。表面は同じように見える会員のかたたちも、おのおのがその人にのみ与えられている道を歩き、それぞれの異なった暮らしを背景としているのです。人間的な苦悩も愛情も、すべてを包含したこの「暮らしているのです」ということばのひびきに、ゆさぶられるような愛着を感じます。

婦人会の仕事が、こうした会員の生活の中心にまで、心の琴線にまでふれて、ともに響き曲を奏でるために、わたしたちは何をなすべきでしょうか？　これが大きな課題としてわたしに課せられたのです。それにはおのおのの生活はどんな状態か、どんなふうに考えて暮らしてい

るのか、つらいことはどんなことか、悲しいことは、願いは、うれしいことは？　わたしはそれが知りたかったのです。まず作文を書こう！

自分たちの生活をそのまま、おなかの中のことをそのまま書いてみよう。具体的に。貧乏まかないについて、嫁としゅうとめ、子ども、夫、隣近所のおつきあい、社会にたいする希望など、じょうずへたは度外視して。広い村ですから、お互い顔を合わせたこともないかたが多いのです。もちろんお話ししたこともありません。とくに会合に恵まれない山間部のかたがたのことが知りたかったのです。作文に発表してみると、自分だけの悩みとして苦しんでいたことも共通なものであり、ひとりひとりの願いも共通の願いとなり、ともに解決の道を考え、あすへの希望をもって戦い進むための手だてとなることと思います。

応募してくださったかたは百六十五名に及び、特別な役員でなく一般会員が多く、山間部のかたが多く出してくださったことには感謝いたしました。よし文章が拙くとも、少しも問題でなく、心をうたれ頭のさがるのを覚えます。どうか書いてくださったかたがたのひとりひとりの立場にたって、お互いの理解と愛情をもって、この文集を読んでください。そして読み放しでなく、部落やグループの会合に、この中から問題をとりあげて話しあい、考え合ってください。とにかくこれがわたしたち婦人の声なのです。ともあれ皆様の協力により、文集の誕生をみることができ、感謝でいっぱいです。個々の力は微々たるものですが、大ぜいの力がよれば

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong